

## 平成27年度『授業評価<1学期>』の結果

校長 小倉 勉

### 1 はじめに

今年度の重点目標として、教える側(教師)と学ぶ側(生徒)との関係で『わかるできる授業づくり』を組織的な取組体制で推進しています。教師側の取組は授業改善による「授業力」の向上であり、生徒の取組目標は「学ぶ力(学びに向かう力)」を高めることです。

本校では、“確かな学力=学ぶ力(学びに向かう力)+学んだ力(身に付いた力)”と定義づけています。この「学ぶ力(学びに向かう力)」の指標となるのが『教師による授業評価』の結果です。一方、教員側の取組である「授業力」の指標は『生徒による授業評価』になります。それぞれの授業評価は、本校における「確かな学力の向上」を推進するために不可欠な検証・評価(Check)ということです。

マネジメントシステムには[R P D C - Aスパイラル]を導入し、Research(実態把握)/Plan(計画・立案)/Do(実践推進)/Check(検証・評価)という一つ一つの取組状況を捉えて迅速にAction(改善・修正)します。Check(検証・評価)の取組の一つが、この『教師による授業評価』と『生徒による授業評価』です。

1学期<4月~7月>の『生徒による授業評価』は7月13日(月)~16(木)に実施しました。『教師による授業評価』は夏季休業期間中の実施でした。その結果を分析・考察して課題を明確にし、9月から12月まで組織的な取組体制で授業改善を推進します。

### 2 「教師による授業評価」「生徒による授業評価」の概要

#### 教師による授業評価

- ① 生徒は、「本時のねらい」と「おおむね満足できる」状況を捉えて学習に取り組んでいる。
- ② 生徒は、話をしっかり聴く姿勢・態度が身に付いている。
- ③ 生徒は、板書をノートにきちんと写したり、プリントに書き込んだりしている。
- ④ 生徒は、自ら学ぶ意欲をもって授業に取り組み、積極的に発言や発表をしている。
- ⑤ 生徒は、本時のねらいの達成状況を自己評価するとともに、自己課題をはっきりさせて授業を終えている。

#### 生徒による授業評価

- ① 先生は、「本時のねらい」と「おおむね満足できる」状況をはっきり伝えている。
- ② 先生は声が通り、はっきりわかりやすく説明している。
- ③ 先生の板書やプリントは、見やすく理解しやすい。
- ④ 先生の授業は、質問や発言・発表などをする機会が多く、きちんと対応している。
- ⑤ 先生は授業のまとめで、生徒の「ねらいの達成」状況や「わからないこと」「できないこと」をはっきりさせている。

1…そう思う。 2…どちらかといえば、そう思う。 3…どちらかといえば、そう思わない。 4…そう思わない。

『わかるできる授業づくり』を組織的な取組体制で推進するために、「教学(教えることと学ぶこと)10項目」のポイントを明確にしています。このうちの重点項目として取り上げた5つが『教師による授業評価』と『生徒による授業評価』の評価項目なのです。この結果をもとに、教員一人ひとりが取組目標や自己課題を設定して「授業力の向上」を図ったり、それぞれの集団における課題把握から組織目標を設定し授業改善への具体的なAction(改善・修正)に取り組んだりします。

このデータが教員一人ひとりの授業改善の達成度や新たな取組課題になるとともに、学年および学校の組織目標となります。よって、授業改善の達成度を客観的に評価するため、下記のように数値目標化しています。

**数値目標：<評価1+評価2>ポイントの5項目平均が80%を超える**

### 3 「教師による授業評価」と「生徒による授業評価」結果の検証・評価

**<評価1+評価2>(肯定的評価)ポイントが『80%を上回れば、おおむね良好と判断する』、『70%を下回れば、改善を要する』という検証・評価で分析・考察する。**

#### 教師による授業評価(学ぶ力)

- 第1学年
  - ・肯定的評価の5項目平均は87.2%であり、数値目標80%を7.2ポイント上回った。
  - ・項目別にみると、「①本時のねらい」「②説明」「③板書・教材」「④質問・発言」の4項目は80%を上回り、おおむね良好である。
  - ・70%を下回る項目はないが、「⑤ねらいの達成」の項目は他の項目と比較してポイントが低く、改善を要する。
- 第2学年
  - ・肯定的評価の5項目平均は93.2%となり、数値目標80%を13.2ポイント上回った。
  - ・項目別にみると、「①本時のねらい」「②説明」「③板書・教材」「④質問・発言」の4項目は80%を上回り、おおむね良好である。
  - ・70%を下回る項目はないが、「⑤ねらいの達成」の項目は他の項目と比較すれば、ややポイントが低いので課題がある。
- 第3学年
  - ・肯定的評価の5項目平均は90.0%となり、数値目標80%を10.0ポイント上回った。
  - ・項目別にみると、「①本時のねらい」「②説明」「③板書・教材」「④質問・発言」の4項目は80%を上回り、おおむね良好である。
  - ・「⑤ねらいの達成」の項目は70%を4.0ポイント下回り、特に改善を要する。

#### 生徒による授業評価(授業力)

- 第1学年
  - ・肯定的評価の5項目平均は86.8%であり、数値目標80%を6.8ポイント上回った。
  - ・項目別にみると、すべての項目が80%を上回り、おおむね良好である。
  - ・70%を下回る項目はない。
- 第2学年
  - ・肯定的評価の5項目平均は85.8%となり、数値目標80%を5.8ポイント上回った。
  - ・項目別にみると、「①本時のねらい」「②説明」「③板書・教材」「④質問・発言」の4項目は80%を上回り、おおむね良好である。
  - ・70%を下回る項目はないが、「⑤ねらいの達成」の項目は他の項目と比較すれば、ややポイントが低いので課題がある。
- 第3学年
  - ・肯定的評価の5項目平均は84.4%となり、数値目標80%を4.4ポイント上回った。
  - ・項目別にみると、「①本時のねらい」「②説明」「③板書・教材」「④質問・発言」の4項目は80%を上回り、おおむね良好である。
  - ・「⑤ねらいの達成」の項目は70%をやや下回り、改善を要する。

### 4 今後の授業改善(Action)

- ◆ 『教師による授業評価』結果をもとに、学年ごとの[項目別](<評価1+評価2>ポイント)の結果と目標値を比較して、各学年の「学ぶ力(学びに向かう力)」の課題を設定する。
- ◆ 『生徒による授業評価』結果をもとに、教員一人ひとりが授業改善の達成度をCheck(検証・評価)するとともに、新しい自己課題を設定して授業力の向上を図る。

『教師による授業評価』結果から、日々の授業に対する生徒たちの「学ぶ力(学びに向かう力)」をはっきりと読み取ることが出来ます。学校全体では、<評価1+評価2>ポイントの5項目平均は90.0%となり、数値目標80%を10.0ポイント上回って目標達成できました。しかし、課題がないということではありません。「⑤生徒は本時のねらいの達成状況を自己評価するとともに、自己課題をはっきりさせて授業を終えている」の項目は72.0%であり、他の項目と比較すればポイントが低く、課題をはっきりさせて取り組むことが必要です。

また、『生徒による授業評価』結果も、「⑤先生は、ねらいの達成やわからないことやできないことをはっきりさせている」の項目は77.0%にとどまり、他の項目と比較すればややポイントが低くなっています。

この相対的にポイントが低い項目を課題として真摯に受け止め、まずは教員一人ひとりが「個人データ」をもとに、授業力の向上を図るための自己課題や取組目標を設定して授業改善(Action)に取り組めます。さらに、学年ごとに結果と目標値を比較して、各学年の「学ぶ力(学びに向かう力)」の課題を設定し、その課題解決を組織的な取組体制で推進します。

全校体制で共通課題として取り組むのは『ねらいの達成』の項目です。確かな学力の要素である“基礎的・基本的な知識や技能”を、1時間1時間の授業で生徒たちが習得することによって学力は向上します。つまり、教える側は『指導と評価の一体化』が不可欠だということです。もちろん、導入の「①先生は『本時のねらい』や『おおむね満足できる状況』をはっきり伝えている」が出発点になり、その善し悪しでねらいの達成状況に差が生じます。

具体的な授業改善のポイントは、導入で『本時のねらい』や『おおむね満足できる状況』の設定を工夫して明確に伝えるとともに、まとめでは『ねらいの達成状況』と『課題把握』をはっきりさせることです。さらに教師が授業力を高め、生徒の確かな学力の向上を図ります。



『教師による授業評価』『生徒による授業評価』の結果は裏面をご覧ください!!

